

伊勢市教育研究所

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

E-mail:kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

平成 25 年 7 月 3 日 発行

伊勢市教育研究所

伊勢市小俣町元町 540 番地

# たより



乳幼児教育専門講座【学校法人今川学園 木の実幼稚園園長 今川公平先生】

## 子どもの造形遊び ~色、形、言葉がつなぐもの~

6月30日(日)に、幼稚園・保育所(園)の先生方を対象に、子どもの造形遊びについて学ぶ機会を設けました。講師は、大阪にある木の実学園の園長をされている今川公平先生。時折大阪弁を交えながら、熱く話してくれました。



「予期した通りに動くのではなく、予期せぬこと、意外なことが起こるのが保育なんです。」と参加者の皆さんに話しかけられました。子どものありのままを大切にしようという意味でしょうか、目の前の出来事を楽しもうという意味でしょうか、ふと考えさせられる言葉です。日ごろの子どもとのかかわり方を振り返る時間をいただいた感じです。

続いて、6歳の子が描いた線遊びの作品を提示されました。ぐるぐるした線、文字をつなげて模様のように描かれているものと様々です。「これは、肩の力を抜いて自然体でやった線遊びなんです。文字や線を組み合わせる実験をしているんですよ。」と先生は話されます。そこには、描かされるのではなく自分の意思で描いている子どもの姿が浮かんできます。

「皆さんの質問から話を進めましょう。」と先生が会場にマイクを向けると、いくつかの質問が出てきました。「子どもが描いている時、どう向き合えばよいのか。」という質問を切り口に話は進みます。描き方を教えるより、その子なりの工夫を具体的にみて喜んであげることが大切だと先生は語ります。一つひとつ丁寧にきいてあげることで、その子のイメージを共有し、共に楽しむことができるというのです。木の実学園では、子どもの

話をききとり、作品のタイトルにして記録したり、言葉をメモしてタイトルの横に記したりと工夫しています。記録が、次の言葉がけにもつながるのだと思いました。描けているところではなく、その子が一番工夫して描けていることをポジティブに喜んであげると、子どもは育つのだとまとめられました。

粘土の話になりました。子どものイメージは、実際に作ったり描いたりしながらできあがっていくといいます。ちぎったり丸めたり、圧したり・・・その経験がイメージと結びついて「見立て遊び」をはじめするため、教師はその瞬間を見逃さないでほしい、子どもが試している時を楽しみながらポジティブな気持ちで見守ってほしいと付け加えられました。



画材についても教えていただきました。クレヨンとクレパスの違い、水彩絵の具とポスターカラー、粉絵の具の違いなど、「言われてみれば・・・」「なるほどそうだったのか・・・」と気づかされることがたくさんありました。画材の特徴を生かして工夫することで、子どもの世界をもっと広げることができることがわかりました。

最後に、体験の大切さとカリキュラムについてお話をしてくださいました。子どもには、楽しくてポジティブな経験をいっぱいさせてほしい、大人も一緒になってときめきを楽しんでほしい、と先生は語ります。楽しい経験は学びそのもの、経験をつなぐカリキュラムを考える必要があると続けます。学びがあるから子どもの世界は広がるのだとも付け加えられました。

子ども達のたくましくて繊細な造形表現から、私たち大人はたくさんのことを学びます。ものの見方や感じ方など、見失っていた何かを取り戻させてくれます。ご講演を聞きながら、「すべての答えは子どもの中にある」という先生の信念を感じとることができました。子どもたちとポジティブに関わりながら、子どもから学べる自分でありたいと思いました。



## アンケートより (一部抜粋)

- ・とてもよいお話を聞かせていただきました。普段の保育を反省し、子どもから出される言葉や表現を大切に、工夫やおもしろがっていることなどを細かく捉え、保育者である私たちがポジティブな言葉がけをしていきたいと思えます。
- ・クレヨンとパスのことについて詳しく教えていただき、大変参考になりました。これまでの自分の「思い込み」のまちがいに気づくことができました。また、気になっていたこと(保育をしていく上での疑問)の答えも見つかりました。なぐり描きが大切なことを確認できてよかったです。
- ・造形遊びを子ども達が十分に楽しめるような環境づくりや教師の言葉がけ、援助の大切さを詳しく学ぶことができ、有意義な研修になりました。子ども達の、触れる・試す・工夫する活動をじっくりと見守っていきながら、作ること、描くことを楽しめるようにしていきたいです。
- ・子どもの造形遊びの重要性、1～2歳児からの「持て遊び」「見立て遊び」(クレヨン・積木・粘土など)、子どものイメージを膨らませ、そのイメージを聞いてあげたり喜んであげる、絵画も同じくポジティブに言葉を受け止め喜んであげるなど、その経験の積み重ねで子ども達が好きな絵が描けるようになっていく事、子どもの普段からの関わり方を教えていただきました。私は、1歳児の担任ですが、大きい白い紙を用意し、皆で自由に描いているのを楽しんでいます。たくさん言葉がけをし、子どものイメージを大切に造形遊びを楽しんでいきたいと思えます。
- ・ポスターカラー、粉絵の具の使い方など、色々知ることができて良かった。「これ」と決めつけるのではなく、様々な子どもの会話から活動などを広げていくのが大切だと思いました。造形活動へのイメージ、私も色々思いつき、保育に生かしていきたいです。
- ・30年前の私は画材に対しても興味津々で、粉絵の具・固定絵の具・ポスターカラー・・・と使っていたのに、今はポスターカラーがあるからそれだけしか使わない。保育園の子ども達ごめんなさい・・・です。「粉絵の具」と聞いて、「ああ、使っていたなあ・・・」と思い出しました。保育士もワクワク・ドキドキ感で接していかないと感じました。今日の日をきっかけに画材についても知り、購入してもらい、チャレンジしたいです。
- ・描けない子に対しては、やはりそれなりのプロセスがあることがわかりました。乳児からの体験・経験が大切であり、それが5歳児になってもつながっていくのだと思いました。また、画材に対しても知っているようで知らない部分もあり勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ついつい形や出来映えを気にしてしまうことが多く、そんな自分の保育を反省できた。講演の中で「なるほど」「そうか」と思うこともたくさんあり、良い勉強をさせてもらえた。